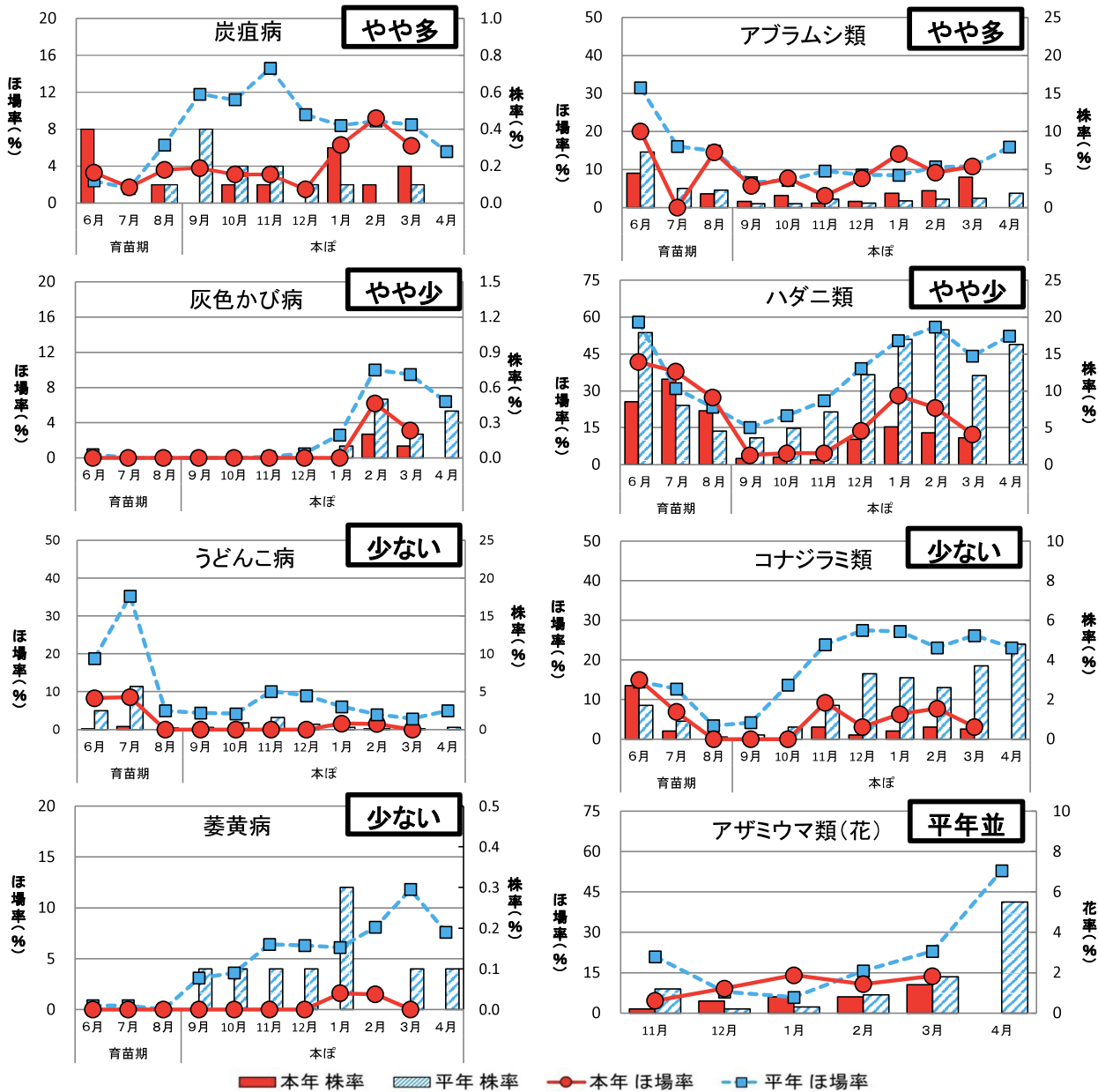


# いちご病害虫情報第10号（3月）

令和6（2024）年3月15日  
栃木県農業環境指導センター

## ■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：65か所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

## ■ 今月の防除ポイント

### ー アブラムシの対策 ー

平年よりやや多い発生です。気温が上がり、増えやすい時期になるので、被害を防ぎましょう。

- 1 ほ場をこまめに確認し、増殖する前に防除を行う。
- 2 発生初期のうちに、ウララDF(RACコード I:29)等をかけムラのないように葉裏にもよく散布する。
- 3 施設内外の雑草は増殖源となるので除草する。

## ■ 今月のトピックス 次作にむけた防除対策

### 親株における対策

基本的な対策として、親株から本ぽに病害虫を持ち込まないことが基本です。本ぽの栽培中には、本ぽから親株への病害虫の持込みを防ぐことも重要です。

### 本ぽにおける対策

特に本ぽで病害虫の発生が見られている場合は、病害虫の拡散を防止するため、防除対策を徹底しましょう。

- 1 本ぽ作業の後に、親株作業は控える(特にハダニは服について移動します)。
- 2 栽培終了時にはハウスの蒸し込みを行い、害虫を外に出さないようにする。
- 3 植物残さは、ハウス外に持ち出して、適切に処分する。特にクラウン部分がそのまま残らないように処分する。
- 4 土壌消毒を実施する。
- 5 施設内外の環境整備(排水対策、除草等含む)を行う。
- 6 施設開口部に防虫ネット等を展張する。必要に応じてネット等の補修を行う。

#### <対応する主な病害虫>

炭疽病、萎黄病、青枯病、萎凋病

アザミウマ類、センチュウ類、コナジラミ類、チョウ目害虫、ハダニ類

### 土壌消毒について

#### <消毒前>

- 植物残さ内の病原菌は消毒されにくいので、ほ場から植物残さを適切に処分する。
- 耕起、砕土を十分行う。適度な土壌水分(手で土を握ると2～3個に割れる程度)にする。

#### <消毒後>

- 消毒済の土に、農機具などに付着した無消毒の土が混ざらないようにする。
- 耕起は、土壌水分が低下してから行う。
- 消毒済の土に含まれる窒素量や作物に吸収可能な窒素量を一律に推定することは難しいので、施肥量はアンモニア態窒素及び硝酸態窒素等を測定して決定する。

### 土壌消毒の種類について

#### <太陽熱消毒>

有機物を混和し、小畝を立て、透明ビニルで完全被覆する。畝間に4～5日水を張り、土がぬれた状態を保ち、約30日間ハウスを密閉して、地下20cmが45℃以上を保つ。

#### <クロルピクリンを成分として含むくん蒸剤>

温度が低いとガス化しないため、地温7℃以上で使用する。

#### <D-Dを成分として含むくん蒸剤>

ネコブセンチュウのほか、ネグサレセンチュウにも効果が高い。